

文書分類番号	00	09	03	002	永年	起案	平成	年	月	日	決裁	平成	年	月	日
議長	副議長	局長	次長	主査	主査	担当							文書取扱主任		

## 第 12 回 総務文教常任委員会 会議録

開催年月日	平成 20 年 8 月 27 日 (水曜日)	開会 10 時 01 分	閉会 12 時 24 分
開催場所	第三委員会室		
出席委員	本間、三上、窪之内、関藤、大谷、井上 議長	事務局	中嶋事務局長
欠席委員	なし		田湯次長
説明員	別紙のとおり		
議件	別紙のとおり		
議 事 の 概 要	1 請願第 5 号「道路整備に必要な財源の確保に関する意見書」の提出についての請願 (平成 20 年 7 月 25 日付託)		
	(1) 請願の趣旨説明		
	請願者として滝川建設協会笹木和幸会長、田端千裕副会長、進藤昭夫事務局長、紹介議員として山腰議員、山木議員、堀議員が出席し、笹木会長から請願趣旨について説明があった。		
	(2) 質疑		
	趣旨説明に対する質疑を行った。		
	2 所管からの報告事項について		
	次の事項について所管から説明を受け、質疑を行い、報告済みとした。		
	(1) 補正予算関連について		
	(2) 滝川工業高校存続要望について		
	(3) 小中学校の適正配置に係るアンケート結果について		
	(4) たきかわコスモスマラソン 2008 第 20 回記念大会の開催について		
(5) 滝川西高軟式野球部全国大会出場について			
(6) 条例改正について			
(7) ジュニア大使訪問団派遣事業について			
(8) 滝川市土地開発公社定款の変更について			
(9) 北海道市町村備荒資金組合規約の変更について			
(10) 財政健全化判断比率の状況について			
(11) 燃料高騰対策について			

議 事 の 概 要	3 第3回定例会以降の調査事項について
	別紙のとおりとすることに決定した。
	4 その他について
	なし
	5 次回委員会の日程について
	9月2日(火)午前10時から開催することに決定した。
	上記記載のとおり相違ない。 総務文教常任委員長 本間保昭 ㊦

平成20年8月26日

滝川市議会議長 中 田 翼 様

滝川市長 田 村 弘  
滝川市教育委員会委員長 若 松 重 義

総務文教常任委員会への説明員の出席について

平成20年7月31日付け滝議第76号で通知がありました総務文教常任委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願ひします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願ひします。

記

滝川市長の委任を受けた者

総務部長	高 橋 賢 司
総務部総務課長	伊 藤 克 之
総務部企画課長	館 敏 弘
総務部企画課交流推進室主任級主事	小笠原 涼 介
総務部財政課長	吉 井 裕 視
総務部財政課主査	景 由 隆 寛
総務部財政課主査	堀之内 孝 則
総務部財政課主査	加 地 幸 治
総務部総務課副主幹	松 本 真 理 子
総務部総務課副主幹	佐 藤 之 俊

滝川市教育委員会委員長の委任及び滝川市長の委嘱を受けた者

教育長	<del>小 田 真 人</del>
教育部長	高 橋 一 昭
教育部指導参事	早 瀬 公 平
教育部学校教育課長	吉 川 修
教育部学校教育課副主幹	<del>杉 原 慶 紀</del>
教育部学校教育課主査	鳩 山 稔
教育部学校教育課主査	土 橋 祐 二
教育部西高等学校事務局事務長	松 澤 公 和
教育部社会教育課図書館長・美術自然史館長	松 本 和 憲
教育部社会教育課美術自然史館主任主事	<del>茂 野 浩 一</del>
教育部社会教育課スポーツ振興室長	坪 田 健 一
教育部社会教育課スポーツ振興室副主幹	竹 谷 和 徳
教育部社会教育課長	河 野 敏 昭

(総務部総務課総務グループ)

第12回 総務文教常任委員会出席者

○請願者

滝川建設協会会長 笹木和幸氏

滝川建設協会副会長 田端千裕氏

滝川建設協会事務局長 進藤昭夫氏

○紹介議員

山腰修司議員

山木昇議員

堀重雄議員

## 第12回 総務文教常任委員会

H20. 8. 27 (水) 午前10時00分  
第三委員会室

○ 開 会

○ 委員長挨拶（委員動静）

1 請願第5号 「道路整備に必要な財源の確保に関する意見書」の提出についての請願  
（平成20年7月25日付託）

- (1) 請願の趣旨説明
- (2) 質疑

2 所管からの報告事項について

《教 育 部》

- (1) 補正予算関連について (資料)美術自然史館
- (2) 滝川工業高校存続要望について (資料)学校教育課
- (3) 小中学校の適正配置に係るアンケート結果について (資料) //
- (4) たきかわコスモスマラソン2008 第20回記念大会の開催について (資料)スポーツ振興室
- (5) 滝川西高軟式野球部全国大会出場について (口 頭)滝川西高事務局

《総 務 部》

- (6) 条例改正について (資料)総 務 課
- (7) ジュニア大使訪問団派遣事業について (資料)企 画 課
- (8) 滝川市土地開発公社定款の変更について (資料)財 政 課
- (9) 北海道市町村備荒資金組合理約の変更について (資料) //
- (10) 財政健全化判断比率の状況について (資料) //
- (11) 燃料高騰対策について (資料) //

3 第3回定例会以降の調査事項について～ 別 紙

4 その他について

5 次回委員会の日程について  
9月2日(火) 10:00 第三委員会室

○ 閉 会

開 会 10:01

**委員動静報告**

委員 長

遅刻～関藤委員。議長出席。空知新聞社、北海道新聞の傍聴を許可。

**1 請願第5号「道路整備に必要な財源の確保に関する意見書」の提出についての請願（平成20年7月25日付託）**

委員 長

本件については7月25日に受付、同日本委員会に付託された。本日は、請願者である滝川建設協会会長笹木和幸様、同協会副会長田端千裕様、同協会事務局長進藤昭夫様、並びに紹介議員である山腰議員、山木議員、堀議員に出席いただいている。後ほど本請願の趣旨について説明いただくのでよろしくお願いする。それでは審査に入るが、審査の進め方については請願者並びに紹介議員から請願の趣旨を簡潔に述べていただいた後に各委員から質疑を受けたいと思う。また本日の審査は質疑までとしたいが、異議はないか。（なし）  
それでは趣旨説明をお願いします。

**(1) 請願の趣旨説明**

笹木会長

ただいま委員長から話があったように、道路整備に必要な財源の確保に関する意見書の提出についての請願をしたわけだが、山腰議員、山木議員、堀議員が紹介議員になっていただいた。簡潔に意見書提出についての請願の趣旨説明をさせていただきます。ご存じのように暫定税率及び地方道路整備臨時交付金制度については先の国会において成立し、道路特定財源制度はことしの税制抜本改革時に廃止され、21年度から一般財源化されることが決定した。この北海道という日本国土の22%を占める広い大地では、道民の移動はもちろんだが、物質の移送は大半が自動車運輸に頼っている現状である。この滝川市においても国道12号、38号の二次改築、または451号の道路整備等主要幹線から住民に最も密着した道路網の整備がおくれることが懸念される。詳しいことについては2枚目の4項目に分けて整理をさせていただきます。地方道路整備臨時交付金制度は現在もあるが、これを継続し拡充を図っていただくことが大きな問題だと思う。この制度が活用されない限り地方自治体における道路整備というものが非常に難しくなるのが歴然としているので、ぜひその点を考慮いただきこの請願について特段の理解をいただきたいと思う。

委員 長

紹介議員から説明はあるか。

山腰議員

総務文教常任委員会委員長初め委員の皆さん方には日ごろからの活発な委員会活動に対し敬意を表する。ただいま建設協会会長より趣旨説明があったが、既に皆さん方に案内しているとおり、この種については何本か請願が出て意見書を提出している。地方の議会としても特定財源のいい悪いは別として、北海道の状況を考えるときに道路整備は欠かせない実態にある。国の財源不足ということから一般財源化にするという決定がされたが、道路整備の臨時交付制度を堅持し継続していかなければ北海道の道路事情は最悪の状況になると考えている。鋭意皆さん方の協力をいただきながらこの願意にそった協議を続けていただき、請願の趣旨を判断し、関係機関、団体等多くの皆さんに訴えていただきたいと思う。審議のほどよろしくお願いしたい。

**(2) 質疑**

委員長  
窪之内

説明が終わった。質疑はあるか。

① 道路整備の事業というのは業界としても大きな仕事となっていると思う。建設協会関係では年間を通して、道路事業に関する事業費は何%を占めているのか。

② 21年度から新しい制度として始まることになるが、このことにより予算や事業の縮小が考えられるのか。何かそういったことについて連絡等が来ているのであれば教えていただきたい。

進藤事務局長

① 土木ばかりではなく建設業界はさまざまな事業をやっている。協会として何%になるかは計算したことがないので、申しわけないが、答弁できない。

② 予算、事業の縮小関係だが、新聞報道やマスコミでそういった話が常々出ている。建設協会としては、重大な問題と認識をしながら行動しているところである。

委員長  
井上

他に質疑はあるか。

長い間議員をやっているが、だんだん地方は疲弊してきている。限界集落が一番多いのも北海道である。小泉改革以前からそうなのかもしれないが、地方が極端に疲弊しているのは現実の問題である。先日8月25日に北海道大学宮脇教授の話聞いたが、北海道開発局が二重行政ということで照準にされ大変な状態になっており、特にそれを書き立てているのは北海道のマスコミとのことだった。これは北海道全体の問題であり、地方が疲弊している中で交通が占める重さの問題である。きょうは建設協会の方が来ているが、こういう動きは全道的に広がっているのか。開発局についてはいろいろと言われており、地方分権でやろうとしている時期なので、大いに頑張ってもらいたいと思う。その辺の気合いの入り方を聞きたい。また開発局のことが話題となっているが、そういうことと関連するのか。関連するとすればいろいろと大変な事態になってくると思うので、その辺の話も全国的、全道的にどのようなになっているのかを含めて伺いたい。

笹木会長

開発局の問題と道路財源問題の本質は違うが、現実的に関連していることも事実である。公共と言えども費用対効果と言われる時代になっているが、この北海道のように広くて人口が少ないという観点において費用対効果だけで判断をしていいのかといった大きな問題もある。特に資源については首都圏では生産しておらず、都会に住まれる方の食生活に関するものも北海道は当然のように送り込んでいる。いくら保温、保冷技術が向上したとしてもある程度の時間が経過すると商品の価値は下がる。当然車両専用の道路、公団でつくる道路もあれば、開発局でつくる高規格道路も含まれる。当然それにつながる支線の問題も地域にはある。そういうものが現在は完備されず、寸断されて計画が進捗していないのも現状である。そういうことを考えると高速道路の持っている意義が終結も完結もされていない。またその経済効果が発揮できる段階になっていないのも事実である。開発局の問題だが、これまでの経過や今になっているような議論がされている。国は国交省、地方では地方整備局。農業であれば国は農水省、地方には地方農政局。ある意味非常に分離していて無駄な組織ができている。そういった中で道路、農業、空港、港などが一括してやっているのは、開発局だけである。非常に合理的である。それをあえて細分化することで、事務量や人件費を含め逆に組織が簡素化どころか不能率という問題が出てくる。少し趣旨が違ってくると思うが、きょう全空知の商工会議所、商工会、もちろ

ん我々も商工会議所の中に入っているが、岩見沢市において原油高騰等問題の国に対する要望、開発局存続の決起大会が行われる。今まで漁業関係や農業関係の方はそういったことに正面から取り組んでいろいろな行動に出ているが、我々の業界は単純に陳情したり、政治家にお願いをしたりということでやってきた。でもここまできるとそのようなきれいごとでは通らない。こういったことは私どもの業界では初めてである。これは全道的にも行われており、きょうの決起大会も単純に大会ということではなく、それなりに一般の市民の方にもアピールしたり、理解をしてほしいということから道路工事についても考えており、そこまで追い込まれているのが現状である。北海道、また地域においても基幹産業の大きな1つの柱であり、基幹産業の経済を支える重心というものを私どもは持っている。そういった意味では単純に自分の社員だけでなく、取引先1次、2次、3次と関係者を含めると非常に大きな影響が出る。積極的にそういう問題に取り組んでいきたいと思うし、今回もそのような一貫からこの請願を出させていただいた。

井 上  
委員 長

危機的な状態になっていることは、その通りだと思う。頑張ってもらいたい。他に質疑はあるか。(なし)

ほかに質疑がないようなので請願第5号に対する質疑を終結する。この請願に対する討論・採決は、次回委員会で行う。次回委員会の開催は、先日案内したとおり9月2日、火曜日を予定している。

以上で請願第5号の趣旨説明と質疑を終わる。ここで休憩する。

休 憩 10:22

再 開 10:23

委員 長

再開する。

## 2 所管からの報告事項について

委員 長

(1)について説明願う。

### (1)補正予算関連について

松本館長

(別紙資料に基づき説明する。)

委員 長

説明が終わった。議案関連なので留意願う。質疑はあるか。(なし)

(1)については報告済みとする。(2)について説明願う。

### (2)滝川工業高校存続要望について

吉川課長

(別紙資料に基づき説明する。)

委員 長

説明が終わった。質疑はあるか。

窪之内

① 19日の要望行動は渡すだけだったのか。もし意見交換をしたのであれば相手の対応について聞かせていただきたい。

② 私は初めて学校を見学し、素晴らしい機械が入っていることを確認させていただいた。17日の集いでも意見が出ていたように、入学者をどのようにふやしていくべきかをよく考えて、いろいろな中学校へアピール行動をとることが必要だと思う。そういったことの新たな動きがあれば伺いたい。

吉川課長

① 今年4月の土木科入学者数については11名と少なかった。要望では、市長、支援する会の尾崎さん、大河道議から、今の定数は40名だが、半分を超えたら存続してほしいという具体的なことも申し上げた。吉田教育長は、数のことについては明確に申し上げることはできないとの返事だった。ただ入学者増が見られる、入学者を希望している方がこの年度にこれだけいるということが明らかかな場合は、現在の道教委の指針変更もあり得る。23年度に土木科1減と書い

てはあるが、入学者増が明確になった時点で対応することもあり得るとの話をいただいた。

② 学校のPRなどについては、入学者をどのようにふやしていくかということも同時にやっていくことが必要ではないかと思っている。当方も要望を受けた道教委もそのような考えを示していた。19日に要望をさせていただいたが、適正配置案最終決定は今の情報では9月2日に行われるのではないかということである。したがって非常に厳しいという見方をせざるを得ないと認識している。ただ一方では、子供に対してどのように魅力を高めて入学者増を図るかを考え、例えば来年度の入学者数を半分の20名というように具体的目標を立て、学校と同窓会、事務局である委員会などでもその方策を話し合い、母体である支援の会などにも報告を申し上げながら、さまざまなアイデアやPR方法についても考えていかなければならないという認識も持っている。要望から帰ってきた後に工業高校にその辺の話をしに行き、具体的な動きをしていこうというところまできている。何とか実行あるものにしていきたいと考えている。

窪之内

① 2日に案が正式な形の計画として発表された後でも、入学者増という状況があればそれを撤回する可能性があるかと受けとめたが、そうとらえていいのか。

② 中学生へのアピールを考えているとのことだが、今まではパンフレットなどを置くだけだった。ものすごく技術を磨けるところなので、実際に学校に来て見て体験してもらうようなツアーなどをぜひ検討していただきたい。

吉川課長

① 入学者数が見込まれる、あるいはそういった確実な情報があるときには、変更もあると道教委も認めているので、私たちもそこを1つの目標に掲げていきたいと思っている。

② 今までにないもの、また今までより1歩進んだもの、PRをした後のフォロー、その辺を重要視した動きを学校とともに進めていきたいと思う。

委員長  
関藤

他に質疑はあるか。

国公立と私立のPRや募集の仕方というのは全く違う。他の市町村でも少子化で公立高校間口減となっているところがたくさんあるが、道教委から言われるまま最終的に減になっている。私立高校の場合はPR等を全道に向けて行っている。例えば札幌の私立高校も例外ではなく、全道の中学校に対してPR活動を行っている。個人的な話だが、民間の私どものようなところにもすべてPRしている。全道へPR活動をして、全道から募集をする。全道から子供たちが集まってくることによって、20名、30名になるというのは可能だと思うが、その辺はいかがか。全道から募集できないのか。

吉川課長

職業学科については全道1区で募集している。道内のあらゆる地区からの入学が可能である。PRも広い範囲でしていけば、幾ばかりかの効果はあると思う。魅力を高め来ていただいても、一方では住まいの問題や寮の問題などいろいろな受け皿の問題が出てくるので、市内の単身者向けのアパートなどの情報も付加しながらやっていきたい。私立学校の募集方法なども学び、工業高校の進路指導の先生方との情報交換をしながら1歩進んだPRの仕方を模索していきたいと思う。

委員長  
副委員長

他に質疑はあるか。

どれだけの活気があるのだろうかと思い、私も17日に参加させていただいたが、正直申し上げて活気がなかった。このプラン作成は支援する会となっているが、教育委員会で作っていると思われる。このプラン作成に工業高校としてはど

の程度加わっているのか疑問に思った。もう1つは工業高校側に熱気を感じなかった。その辺を伺いたい。

吉川課長

プランの作成に当たっては、作成段階で校長、教頭とも話をさせていただいた。特に今の工業高校の入学状況など現状をとらえ、その上で魅力を高めるという視点でプランをつくっている。したがって校長先生なりの分析をいただいたり、就職の定着率も他の普通科高校と比べて高いといった特徴なども織りまぜながらそれらの背景を重視をしてやっている。最終ページには具体的プランも掲げ、国際化を育てるような育成プランや専攻科についても新たなものとして示した。道教委がどのような反応をするかわからないが、この辺も魅力を高める1つの方策として道教委にぶつけてほしいとの学校側の考えもあった。学校の組織全体がどこまでこのプランについて浸透されているかは私たちも把握していないが、会議では意見交換もしたと聞いている。作成したのは支援する会であり、教育員会がかなりの部分で提案を示しているものだが、生徒増については先生方の考え方に大きく左右される部分があると思っているので、学校も少なからず今以上に気を盛り上げていただきたいと思っている。

副委員長

職員や砂川など近郊にもOBがたくさんいる。そういうOBが一生懸命にならないと地域全体が盛り上がりがないと思う。支援する会を開催した日すら知らなかった方が多かったので、その辺の動きも必要なのではないかという思いを持っているので、ぜひお願いをする。

委員長  
議 長

他に質疑はあるか。

17日の会議に出た方は今の発言と同じで、非常に心配をしている。実は私もあの会議に出て、この会議は何だろうと感じた。教育委員会だけが一生懸命やって、すごく温度差があるように感じた。こんなことでは土木科はもちろん、学校自体がなくなるというような感じである。事案は違っても教育委員会は2年前に江部乙の関係で経験したことなので、また同じようにやっていると結局繰り返になってしまう。これはかなり気を入れてやらないとだめだと思う。お願いしたいなどと現場には言っているが、もう少しビシビシと地元の教育委員会としてやってもらわないと困る。その辺は気を入れてしっかりとやっていただきたい。お願いする。答弁はしない。

委員長  
窪之内

他に質疑はあるか。

正式な計画が示されたとき、学校として道教委からいろいろな運動の規制が入ることなく自由に動ける立場であるのか。こういう計画になったのに校長はなぜこの計画に従わないのかといったことになると思う。その辺は大丈夫なのか。

高橋教育部長

19日の要望行動が終わり、その後市長と教育長が工業高校へ行き直接校長と会ってきた。その前の日には、教育長が空知教育局長のところへ伺った。そういつた中で、市全体で盛り上げているのに現場のモチベーションが低いという印象を我々も持っているが、工業高校の校長としては土木科の大切さという思いはあるようである。道教委の指針が出た場合、工業高校の先生方がそれに逆らった行動が全くできなくなるのではという点においては、市の状況や管内に土木科がなくなってしまう危機感というのを校長初め学校全体も持っていると思うので、それは一緒に進めていきたい。学校の理解なくして進めるわけにはいかないと思っている。議長の言うように工業高校とも相談をしながら、少しずつではあるが、ビシビシと進めたいと思っている。

窪之内

OBだけでなく高校で教鞭をとっていた先生もたくさんいる。そういった方た

委員 長 ちの力も借りていただきたい。答弁はいらない。  
他に質疑はあるか。(なし)

吉川課長 (2)については報告済みとする。(3)について説明願う。  
委員 長 (3)小中学校の適正配置に係るアンケート結果について  
大 谷 (別紙資料に基づき説明する。)  
説明が終わった。質疑はあるか。  
児童生徒数についてだが、中学校と小学校の平均は27.9人、32人なのでいいと思うが、結構生徒数の多いクラスが6クラスほどあった。現状維持ということは、それらを平均すれば市としてはそれでいいという考えになる。多いクラスについては随時減らしていく方向にしないといけないのではないかと思うが、その辺の考えを伺う。

吉川課長 平均ということで申し上げたが、現実には35人以上で学級活動をしているのは小学校では第二小、第三小、西小の6つの学級である。中学校では江陵中と明苑中に35人以上のクラスがある。子供たちに行き届いた教育をするために、ことしから試行的ではあるが中学校でも35人学級を導入している。道教委で実施している35人学級を中学1年生にも進めているので、その辺のところを皆様にもきちんと知らせながら、少人数学級についてどのような思いを持っているのか十分に聞き取っていきたいと思っている。

委員 長 他に質疑はあるか。  
窪之内 どういう趣旨を持って、どうしてこのアンケートが必要なのかということを中心に知らせたアンケートをやったのか。学校評議員の回答率が68.6%であり、アンケートを出さない学校評議員は、その資格があるのかと思いたくなる。何のための学校評議員なのか。こういう適正配置のアンケートをやるときに答えられないとはどういうことなのか。自分の意見を書くようなアンケートではないのにそれにも答えない学校評議員がいることについて、なぜ学校長は100%になるまで出させなかったのか。このようなことでいいという思いで教育委員会はアンケートをとったのか。これについて明確にしてほしい。保護者の回答率も決して高くはない。このアンケートがどういう意味を持つものなのかをきちんと認識させて答えてもらうようなアンケートではないのか。

吉川課長 学校評議員については市教委から直接郵送で依頼し、郵送で回収する方法をとった。もちろん評議員の方にアンケートを依頼していることは校長にも知らせているが、どのくらいの方が回答したかは校長としては知る由もない。窪之内委員の言うような、もう少し積極的な声を回収することについてはもっともだと思うが、その点は無記名なのでできなかった。その程度にとどめざるを得なかったというのが実情である。

窪之内 学校評議員を無記名にする必要があったのだろうか。校長のサポートとして考えるときにこうした問題に対してそれぞれの立場を明確にしてしようとする評議員は何なのかと思う。無記名でやったので回答者を確認できる手段はないのかもしれないが、そういう評議員の制度はどうなのかといった問題にもなる。地域で学校をどうするのか、滝川市全体で学校をどうするのか、適正配置をどう進めるのかはとても大事なことである。自分たちがサポートをしている学校の評議員としてどのような考えを持っているかを明確にしておらおうとするのであれば、無記名にすることはなかったのではないか。無記名であっても学校別のアンケート結果は示せるようになっているのか。

吉川課長 各学校を訪問して懇談する際には、その学校ごとの結果を示している。

窪之内 きょうの資料には、各学校ごとのアンケート結果は出ていないが、これは公表できるものにとらえてよいか。

吉川課長 公表できる。

窪之内 学校、地域によっていろいろな意見のばらつきがあると思う。学校ごとの結果についての資料がほしいので諮ってほしい。

委員長 窪之内委員から資料要求があった。学校別のアンケート結果について提出いただきたいとのことだが、よろしいか。(よし)

提出をお願いしたい。後日机上配付ということをお願いする。

他に質疑はあるか。

井 上 教育長はなぜ出席していないのか。

高橋教育部長 別公務が入っており、きょうは出席していない。

井 上 大事な報告をするときに教育長が出ていないと進めていけない。あなた方が責任をとれるのか。窪之内委員も言ったが、何の責任もない顔も見えないようなアンケートをどのように使っていくのか。これに基づいてミスリードしたらどうするのか。地域にとっては重要な課題であり、地域の存続の問題である。今限界集落などといわれている中で、保護者だけの問題ではなく行政の方向性を示すものである。あまりにも無責任のやり方をされては困る。アンケート行政をやっていくつもりなのか。今後のスケジュールはどうなっているのか。

吉川課長 重複するが、アンケートの結果や基本方針、耐震の状況などについてもすぐに情報を提供して公開していきつつ、各学校ごとの意見や提言、不安なども伺い、具体的にPTAとの懇談を終了した後、11月策定に向けて、適正配置計画を策定したいと思っている。その作業を早急に進めていきたいと思っている。

井 上 地域との懇談などのスケジュールはどうなっているのか。

吉川課長 11月をめどに計画案を発表したいと考えている。その発表後にその計画案の内容を広報にも掲載し、地区での住民説明会のようなものも進めていかなければならないと思っている。

井 上 発表してから地域との懇談をしてもだめだと思う。これは本格的に地域との懇談を行わなければ間違った方向に行く。今回のアンケートも無記名であり、責任をずらすようなやり方である。その辺のことを肝に銘じてやってほしい。答弁は知らない。

委員長 他に質疑はあるか。なければ私から伺う。

意図がないアンケートであり、何かぼんやりとしている。例えば1学年に何学級あればよいかと聞かれたら、それは2から3学級あったほうが良いと思う。どういう状況の中でのアンケートなのかということを明確にしないと、ただいいと思うことについての回答にしかならない。アンケートの意図を出した上で、アンケートや意見聴取をしないと意味がないと思う。耐震の問題、建てかえの問題などを含めて市民に総合的に判断していただくためにも、この段階のアンケートが必要だったのかが疑問に思う。このアンケートをするに当たり、書面での説明はどのようなものだったのか。今後住民説明会を行うと言っていたが、もう少し濃いものにしていったほうが良いと思う。その辺の考えについて伺う。

吉川課長 基本方針を3点くらいに分け、学校の規模、学級の規模を中心に示させていただいた。それに対してどのような考えを持っているか1つの世論調査にとらえて実施した。今後この部分の調査、次なる計画案ができたときに住民説明会を

行い、またその上で幅広い市民の考え方の調査が必要になってくるのではないかと考えている。今具体的にスケジュールの中に入れていないので、その辺はきちんと計画案をつくる際に今後どのような形で住民の皆さんの声を聞くのかを考えてなければならないと思うが、その方法は対話をしたり、アンケートをするということになると思う。計画案を示した後のスケジュールをどのような形にしていくかは十分これらのことを念頭において進めていきたいと思う。

委員長

いずれにしてもオブラートにくるんだような内容の中で、厳しい意見を聞かないようにしていても、最後は聞かなければならなくなる。それは早く聞くかおそく聞くかの違いだけなので、そういったことをしっかり受けとめてやっていったほうが良いと思う。

他に質疑はあるか。(なし)

(3)については報告済みとする。(4)について説明願う。

#### (4)たきかわコスモスマラソン2008 第20回記念大会の開催について

坪田室長

(別紙資料に基づき説明する。)

委員長

説明が終わった。質疑はあるか。

窪之内

予定以上の参加者ということだが、当初予算で間に合うのか。記念品などもふえると思うが、何か財政的な対応はしたのか。

坪田室長

参加者がふえると、参加料の収入が増となる。その中でやりくりをしようと考えている。

委員長

他に質疑はあるか。(なし)

(4)については報告済みとする。(5)について説明願う。

#### (5)滝川西高軟式野球部全国大会出場について

松澤事務長

創部20年目にして初めて全道大会を制し、今月の25日から開催されている全国高等学校軟式野球選手権に出場している。会場は兵庫県明石市である。22日に出発しており、この出場においては先の臨時会で補正予算を承認いただき、滝川市から補助金100万円を充てさせていただいた。大会は全国から16チームが参加しており、西高は開会式直後の第1試合を戦った。相手は北部九州代表、福岡県糸島農業高校であり、本高と同じ初出場の高校である。結果については4点を先制し、7回に2点を取られたが、4対2で勝利することができた。北海道勢としては11年ぶりの勝利である。また本日午前10時から高砂市営球場で2回戦を戦っており、相手は南部九州代表、熊本県河浦高校である。10分ほど前の情報では7回を終了し、3対1でリードしている状況である。途中経過も含め報告とさせていただく。

(5)については報告済みとする。ここで若干休憩する。

休 憩 10:36

再 開 10:38

委員長

再開する。(6)について説明願う。

#### (6)条例改正について

伊藤課長

(別紙資料に基づき説明する。)

委員長

説明が終わった。議案関連なので留意願う。質疑はあるか。(なし)

(6)については報告済みとする。(7)について説明願う。

#### (7)ジュニア大使訪問団派遣事業について

舘課長

(別紙資料に基づき説明する。)

委員長

説明が終わった。質疑はあるか。

井 上  
館 課 長  
なぜ男子が1名なのか。  
15名の応募があり、そこから選考しているが、特に男女の区別はない。恐らく海外との交流においては女子のほうが積極的で興味を持っているのではないかとと思われる。

委 員 長  
他に質疑はあるか。(なし)  
(7)については報告済みとする。(8)について説明願う。  
**(8) 滝川市土地開発公社定款の変更について**  
(別紙資料に基づき説明する。)

吉井課長  
委 員 長  
説明が終わった。議案関連なので留意願う。質疑はあるか。(なし)  
(8)については報告済みとする。(9)について説明願う。  
**(9) 北海道市町村備荒資金組合理約の変更について**  
(別紙資料に基づき説明する。)

吉井課長  
委 員 長  
説明が終わった。議案関連なので留意願う。質疑はあるか。(なし)  
(9)については報告済みとする。(10)について説明願う。  
**(10) 財政健全化判断比率の状況について**  
(別紙資料に基づき説明する。)

景由主査  
委 員 長  
説明が終わった。議案関連なので留意願う。質疑はあるか。(なし)  
(10)については報告済みとする。(11)について説明願う。  
**(11) 燃料高騰対策について**  
(別紙資料に基づき説明する。)

吉井課長  
委 員 長  
井 上  
説明が終わった。質疑はあるか。  
この高騰対策は内部向けのものである。きょう岩見沢市で決起集会をやっているようだが、何か外部向けで連動した動きというのはあるのか。大型補正予算を組むという大きな流れにはなっているようだが、何か見えている動きはあるのか。

高橋総務部長  
直接的な集会やデモ行進のような動きはないが、市内の業者団体が参加をして行動をとりにしていくということは聞いている。外部的な動きでは、市長会で政府に対する緊急要望の動きがある。空知の市長会議や副市長会議の中では、福祉灯油等の施策の取り組みの情報交換をしている。

委 員 長  
他に質疑はあるか。(なし)  
(11)については報告済みとする。  
今速報が入った。西高は3対1で勝ったそうである。明日は栃木県作新学院との対戦である。  
**3 第3回定例会以降の調査事項について**  
別紙のとおりでよいか。(よし)

委 員 長  
**4 その他**  
何かあるか。(なし)

委 員 長  
**5 次回委員会の日程について**  
9月2日の午前10時から第三委員会室で行う。  
以上をもって第12回総務文教常任委員会を閉会する。

閉 会 12:24